

平成二十四年度

付属中学校入学試験問題

国語

〔注意事項〕

- 一、試験開始の合図があるまで、問題を開かないこと。
- 二、解答は必ず解答用紙に記入すること。
- 三、出身小学校名、氏名、受験番号を解答用紙に記入すること。
- 四、試験終了の合図があったら鉛筆をおき、解答用紙の回収がすむまで席を立たないこと。

〔一〕 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

私たちは何のために本を読むのだろうか。学校の先生は、国語力をつけるために本を読みなさいと言う。では、国語力をつけることが読書の目的なのか。いや、それでは本に対して失礼だ。

私たちはごはんを食べる。何のために食べるのだろう。活動するのに必要なエネルギーを得たり、身体を保つのに大切な物質を取り入れたりするために食べるのだ。それはとても正しい答えだ。しかし、それだけではない。それだけであるとするなら、それは料理をする人に対してあまりに無礼だ。① エネルギーを得るだけなら、点滴注射で血管に栄養たっぷり② の薬液を注入すればよい。必要な物質を補給するだけなら、錠剤のサプリメント(ビタミンなどの不足しがちな栄養素を補うための食品)をかじっていればよい。でも、私たちはそれでは満足できない。③ おいしいものを食べたいのだ。そして、「おいしい」という心地よさを求めて食べるのだ。

では再び、私たちは何のために本を読むのだろうか。どうして本を読もうとするのだろうか。読書には三つの喜びがある。

その一 本を読むことよって、知らなかったことを知る。

知識が増えるというのはいれしいことだ。調べものはインターネットという人がいる。手軽なのは確かだ。しかし、専門的に深く知りたいときには、本と格闘することになる。また、調べるつもりはなくても、小説を読んでいくなかで、思いがけず新たなことを知るといふこともある。北海道はかつてにしん漁でにぎわったときく。わたしは、にしんは食べるための魚だとばかり思っていた。しかし、にしんは北海道で消費されるのではなく、肥料に加工されて北前船(江戸時代から明治初期にかけて北海道の海産物を日本海・瀬戸内海まわりで関西へ運んだ船)で大阪まで運ばれていた。⑤ 小説『菜

の花の沖』(司馬遼太郎)は、にしんはそばの上にのせて食べるだけでなく、畑にまかれる魚でもあったということを、私に教えてくれた。

その二 自分がふだん考えていたことが、本の中にある言葉に出会うことによってスッキリ整理される。

自分の頭の中でありながら、**A**して自分が何を考えているのか分からないことがある。そうした状態で本を読んでいるとき、「自分が言いたかったのはこういうことだったんだ」と、考えをまとめてくれる文章に出会うことがある。それは、石灰水せっかいすいに息⑥（二酸化炭素）をふきこむと透明とうめいな液が白くなり、やがてそれがまとまってビーカーの底に沈殿ちんでんするのと同じ。本は思考の二酸化炭素だ。ただし、石灰の入っていないただの水にいくら息をふきこんでも**B**とあわが出るだけだ。頭の中で何も考えていない人間がいくら本を読んでも沈殿は起こらない。「何々の本でだれそれがこんなことを言っていた」と、他人の考えの受け売りばかりしているはずかしい人間になってはいけない。

その三 純粹じゅんずいに物語の世界を楽しむ

自分が作品の世界に入りこみ、その中に生きているかのように**C**できる作品に出会えたら、それはとても幸せなことだ。この幸せは、すてきな音楽・絵画・演劇・映画・ドラマに出会ったときと同じだ。幸せに理屈りくつはいらない。ただ作品の世界に遊び、読み終えたときに別れの悲しみを少し感じればよいだけだ。くれぐれも幸せに優劣ゆうれつをつけてはいけない。本を読むことは決して最上の喜びでは**D**。音楽に喜びを感じる人は音楽を、絵画が好き人は絵画を楽しめばよい。本好きにかぎって本が一番だと思いがちなのは困りものだ。本しか楽しみがないというのは、むしろさみしいことだ。

読書には三つの喜びがある。これから中学生になろうとしている君、国語力をつけるためなんていうもののためではなく、おいしい料理を食べると同じように、本を読むのを楽しむことだ。おいしい料理が自然と身体のためになるように、すてきな本は心の栄養になるだろう。しかし：化学調味料で味付けされたものをおいしいというのではなく、まともな料理をおいしいと感じることができる、正しい判断力を持った舌を育てるためには、常に正しい味付けの料理を口にしていないといけない。**⑦**どの本を面白いと感じるかということにも、同じことが言えるにちがいない。

問一 — 線部①「無礼」と同じ意味の言葉を文中よりぬき出し、漢字二字で答えなさい。

問二 — 線部②「それ」とはどういうことか、五十字以内で説明しなさい。ただし、句読点も一字として数えます。

問三 — 線部③「おいしい」と同じ仲間の言葉を  で囲った中からぬき出して答えなさい。

問四 — 線部④「かつて」の意味を次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア とても                      イ まったく                      ウ 以前は                      エ 現在まで

問五 — 線部⑤「小説『菜の花の沖』（司馬遼太郎）は」がかかる部分を、線ア〜コの中から一つ選び、記号で答えなさい。

問六 — A・B・C に入る言葉として最も適当なものを次の中から一つ選び、それぞれ記号で答えなさい。

ア ビクビク                      イ ブクブク                      ウ ミシミシ                      エ モヤモヤ                      オ ワクワク

問七 — 線部⑥「本は思考の二酸化炭素だ」とはどういうことか、解答らんひに合う形で三十字程度でわかりやすく説明しなさい。ただし、句読点も一字として数えます。

問八 — D に入る言葉をひらがな二字で答えなさい。

問九 — 線部⑦「どの本を面白いと感じるかということにも、同じことが言えるにちがいない。」とはどういうことか、六十字以内でわかりやすく説明しなさい。ただし、「育てる」という言葉を必ず使うこと。句読点も一字として数えます。

問十 次のア〜エについて、筆者の考えと合っていれば○、違っていれば×をそれぞれ書きなさい。

ア 国語力をつけることは、本を読む一番の目的ではない。

イ 読書は音楽・絵画・演劇にもまさる、すばらしいものだ。

ウ 本を読むことによって、考えもしなかったことを思いつくことがある。

エ 専門書に限らず、小説を読むことによっても知識が増えることがある。

問十一 自分が読んで面白いと思った本について、書名を書いた上で、どこが面白かったか百字以上百二十字以内で書き

なさい。ただし、句読点も一字として数えます。なお、どの本を選んだかによって得点が変わることはありません。

また、書名は正確なものでなくてもよいですし、忘れた人は書名を書かなくてもかまいません。

## 〔二〕

次の1～6の——線の漢字の読みをひらがなで答え、7～12の——線のカタカナは漢字に直しなさい。ただし、送り仮名の必要なものは、それも答えなさい。

- |    |                 |    |          |    |             |   |             |
|----|-----------------|----|----------|----|-------------|---|-------------|
| 1  | 野菜を刻む。          | 2  | 水分が蒸発する。 | 3  | 救済を求める。     | 4 | 綿織物。        |
| 5  | 席を設ける。          | 6  | 悲喜こもごも。  | 7  | 畑をタガヤス。     | 8 | ココロヨク引き受ける。 |
| 9  | アラタナ年。          | 10 | ミジカイ話。   | 11 | アブナイ所で遊ばない。 |   |             |
| 12 | オリンピッククのジュシヨウ式。 |    |          |    |             |   |             |

## 〔三〕

次のそれぞれの（ ）に漢字で数を入れて、下の意味を表す言葉（慣用句・ことわざ）を完成しなさい。

- 1 仏の顔も（ ）度：おだやかな人でも、たびたびいやなことをされると腹をたてること。
- 2 三つ子の魂（ ）まで：幼いときの性質は一生消えないものだということ。
- 3 うり（ ）つ：顔つきなどが、非常によく似ていること。
- 4 （ ）死に一生を得る：助かりそうもないものが、やっと助かること。
- 5 （ ）目置く：すぐれた者に敬意をはらうこと。

## 〔四〕

次の各文には、敬語の使い方に不適切な部分があります。その部分の記号を答え、適切な敬語に書き改めなさい。

- 1 この本は校長先生が私にくれたものです。  
 2 先ほどあなたが申されたようにしてください。  
 3 先生は会場までバスで来た。  
 4 兄が先生によろしくとおっしゃっておりました。  
 5 先生、その仕事はわたしがやる。

## 〔五〕

次のそれぞれの漢字のグループの中から、熟語の構成が異なるものをも一つ選び、記号で答えなさい。

- 1 ア 絵画           イ 岩石           ウ 禁止           エ 高低           オ 救助  
 2 ア 大小           イ 永久           ウ 父母           エ 男女           オ 進退  
 3 ア 古都           イ 水圧           ウ 消火           エ 魚群           オ 鉄橋  
 4 ア 加熱           イ 作曲           ウ 乗馬           エ 新米           オ 読書  
 5 ア 不満           イ 無料           ウ 未知           エ 非常           オ 新旧

